

平面部門 審査評

審査員 田中 孝 前川 秀治

総評

昨年より出品点数が増え喜ばしく思っていました。結果的に展示スペースから数点が選外となりました。経験豊かな力作と一方ユニークな秀作も多く、限られた賞の数からすれば激戦となり、嬉しい悲鳴と「惜しいなあ」「残念でつらいなあ」の思いと声を連発しながらの難しい、厳しい審査となりました。あと10点ほど賞をつけたいところでした。今後も、一人一人の創作の取り組みが活発に展開されますよう、ますます地域の魅力がふれる展覧会となりますよう期待しています。(前川)

甲賀市展賞 『水』 坂上 秀機

川端(かばた)で作業する人物を独特で絶妙な視点でとらえ、色彩も墨色と原色を上手く生かし、日常生活の一端を描きながら、斬新で力強い作品となっています。画面の隅々まで細心の配慮がされていて、大胆な構図が活かされています。(田中)

甲賀市議会議長賞 『塩鮭の寒干し』 森 茂樹

何とんでも塩を吹いた美味しそうな鮭の質感に驚きを覚えました。水彩画と思えない重厚な筆致で描かれ、大きな鮭の塊にもう一つの塊のバランスもおもしろく構図されています。天井の木組みもデザイン構成へと変形されているのだろうと解釈しました。(前川)

甲賀市教育委員会教育長賞 『黄昏の池』 堤 智恵美

美しく淡い墨の濃淡で描かれていますが、老木の力強さや、やさしい木漏れ陽の光、水面の輝きなど、質感が見事に表現されています。地域の水墨画の仲間のみなさまで、一層素晴らしい作品ができますよう期待しています。(田中)

NHK 大津放送局長賞 『八木くん』 峰松 浩明

ドローイングの原点の「グリグリ…」画面いっぱいにかき重ねられて、平面に寝かせて四方から思いのたけに「かく」行為で満たされ、よく見ると額縁にまでこの単純な「グリグリ」を繰り返す中で階調やアクセントが生まれ、素晴らしい画面となりました。(前川)

びわ湖放送株式会社賞 『狸と孫』 池本 たまき

スカーレットで全国的にスポットが当てられている信楽のひょうきんな狸が家族のように並んでいて、二人のお孫さんも狸に負けないよい表情で描かれています。暖かい美しい色調で、作者の内面の豊かさと愛情が感じられるよい作品です。（前川）

佳作 『花咲く庭園』 杉本 直樹

普段みなれた庭さきの植木鉢に、いつもと変わらない陽があたっている庭の一隅を通して、作者の幸せな日々が感じられます。（田中）

佳作 『春を待つ』 清水 修美

二人のおばあさんの表情が、それぞれ個性的で、おそらく若いころからの友人だったのでしょう。ほのぼのとした人物画になっています。（田中）

佳作 『古民家の里』 森川 瀬津子

古民家の風景を独特の色調でとらえ、さわやかに流れる風を感じます。後ろ姿の人物と一輪車がこの絵の雰囲気をもっと強く印象づけています。（田中）

佳作 『湖北にて』 大原 健

主題の木に対する作者の愛情が伺われます。背景の白い色にも微かな色変化があり、小枝の細部に至るまで心配りを感じます。（田中）

佳作 『紅薫る』 鮎川 美知子

バラの花を画面いっぱい真正面から取り組んでいる作者の姿勢が伝わってきます。ともすれば単調な絵になりがちですが、花びらの色、葉の色にも変化と工夫がみうけられ、植物の生命力が伝わってくる作品です。（田中）

佳作 『廃工場』 杉本 洋二

廃工場とブロック、カラス、立入禁止の札と斜めのフェンス、枯れ草などによる絶妙の構成で、作者独自でユニークな世界が表現されています。次の作品の展開は…と、大いに期待しています。（前川）

佳作 『塀越しに』 笹尾 康

土塀越しに緑豊かな大木と、大きな屋根の寺院でしょうか、安定した墨色と階調の美しい水墨画です。随分水墨画もお描きになっておられるのでしょうか。塀の屋根瓦と楠でしょうか緑の塊のリズム感が美しく快いと感じました。（前川）

佳作 『sora・精霊』 岸田 章弓乃

描き慣れた作者独特の世界、大空の空気や風や空間感が味わい深いと感じました。色彩も青を主調として微妙に黄や赤が配置され青の暗色で精霊の表情に連なるアクセントが快いと感じました。（前川）

佳作 『森の妖精』 福澤 昭吉

不思議な不思議な魅力に先ず惹かれて、長い手足の違和感も消えるほど動勢感あふれ踊る妖精の姿。そしてその踊りに同調するかのよう森がリズム感をもって動いているように感じられました。次はどんな世界を描かれるか楽しみです。（前川）

佳作 『鎖』 竹中 みつえ

海辺の錆びた大きな鎖の塊、さざ波の潮風に心地好さを感じる。コンクリートの堤に船を繋ぐ大きな鎖に蛸がうねり動くような、動きを感じました。鎖の重量感・質感の描き込みをあと一息、そしてサインの入れ方に配慮があればと惜しい気がしました。（前川）

奨励賞 （水口ライオンズクラブ賞） 『美醜について』 宮松 侑奈

作者の持っている独特な雰囲気、観る人をも共有させてしまう不思議な魅力をもった作品です。技法的にぼかしなど未熟な点はあるものの構成力・デザインについては、今後大いに期待しています。（田中）

工芸・立体部門 審査評

審査員 飯森 よしえ 加藤 和宏 三原 サダ子

総評

昨年と比べると作品の数が少なかったですが、力作も多く造形的にもたくさんの工夫も見られました。土地がらでしょうが、陶芸作品が多く、どの作品も素晴らしく選ぶのも苦労しました。（飯森）

技術的にも造形的にも装飾的にも意欲的な作品が多くみられました。（加藤）

甲賀市展賞 『想い（草木染・平織り）』 青木 三佐子

草木染の華やかさと色のうつろいが見事に表現できています。「想い」が伝わる草木染の素晴らしさです。令和にふさわしい初春の作品に仕上がりに、感銘を受けました。（飯森）

甲賀市議会議長賞 『星空』 洞 勇同

題名のとおり明るい星空がうまく表現できています。形も豊かで広がりを感じさせています。（加藤）

甲賀市教育委員会教育長賞 『冬来たりなば・・・』 望月 富美子

山茶花の花を大胆に配置した力強い染色作品です。右端にハーフトーンの部分があり、冬の到来が感じられる秀作です。花や蕾の大きさやハーフトーンの分量については更に追及してほしいです。次回作を期待します。（三原）

産経新聞社賞 『鳴門の渦潮』 高橋 文子

渦巻く潮の様子をパッチワークで表現された作品です。藍色を基調として縞や格子柄をうまく配置し構成されています。渦が綺麗すぎて惜しいです。また、全て柄でなく無地の所があれば更に良かったと思います。（三原）

読売新聞社賞 『気』 渡辺 耕造

円から角への変化が自然で無理のない形に好感が持てます。（加藤）

佳作 『組曲』 清水 照代（照）

造形的にも素焼きの良さが出た作品になりました。躍動感が感じられます。（飯森）

冒険心にあふれた造形に作者の意欲と技術の高さを感じさせてくれる作品です。（加藤）

佳作 『和紙ちぎり絵 ひまわり』 奥田 永子

構図も良く平面的でない深みの有る作品になっていると思います。（飯森）

佳作 『親子鹿（陶製）』 出口 博之

鹿の表情が素晴らしく思わず見入ってしまいました。（飯森）

独自の表現処理により質感がうまく表現されています。（加藤）

奨励賞 水口ロータリークラブ賞 『土の栄華』 藤本 将詠

力強い作品ですが、指先に小さな花を添えやさしさと温かさを感じられます。（飯森）

書部門 審査評

審査員 森嶋 隆鳳 柳谷 金平

総評

今年の応募点数は昨年並みの点数と聞き、皆さんの市展に対する思いが感じられて嬉しく思います。審査をさせていただきレベルの高さに驚き、受賞作を決めるのに苦慮しました。流石に受賞作は素晴らしく、また賞にもれた作品も紙一重で次回を期待したい。今後市展発展の為に日々の練磨を怠る事なくご精進下さいませ様お祈り致します。（森嶋）

甲賀市展賞 『杜甫詩』 田中 天祐

杜甫詩五言律詩を方形に書かれた快作。昨年の2.6尺×6尺の縦作品も素晴らしかったが、本年は難しい方形に挑戦され、見事一席に推薦されました。一字一字の確かな骨格、文字の大小、潤渴の変化等、日ごろの習練の賜物。今後のご精進を祈ります。（森嶋）

甲賀市議会議長賞 『虚心坦懐』 松永 大樹

大迫力の作。見る人の心にしっかりと訴えかけて来ます。太い線の中に細線を入れて一層太さと圧力が際立ちました。（柳谷）

甲賀市教育委員会教育長賞 『李白詩』 村田 知晏

力強い筆致で一字一字を単体で書いた作品でありながら、各行の上から下への自然な流れが何とも言えない響きをかもし出されています。行間、字間の余白が美しく確かな実力が感じられました。（森嶋）

毎日新聞社賞 『漢詩句』 橋本 律子

墨量の多い部分と渴筆を上手に組み合わせる変化のある作品となりました。また余白に線の勢いがうまく働きかけています。（柳谷）

中日新聞社賞 『張説詩』 墨田 睦水

七言律詩を横に展開された作品。力強い筆遣いで丁寧に書き進められ仲々の出来栄えに仕上がっています。ただ、少し行間の処理に今後の課題として取り組んでもらいたい。（森嶋）

佳作 『漢詩句』 橘 嘉代子

達者な筆さばきでスピード感が存分に現れています。（柳谷）

佳作 『隋處樂』 吉川 温子

文字の大小、細太があり中心線も通っていて佳い作品。名前に留意されたい。（柳谷）

佳作 『春照』 太田 あゆ美

伸びやかな線で上手。縦長の字形が多くなった。（柳谷）

佳作 『高適詩』 西野尾 侑心

墨量たっぷりに、力強い筆遣いで堂々の作。確かな字形と思い切りの良い筆致が胸を打つ。（森嶋）

佳作 『劉崧詩』 鵜飼 紀香

草書の連綿を駆使しながらの爽やかな作品。穏やかで温かい作風。縦への流れが抜群である。（森嶋）

佳作 『栄壽』 神山 珪泉

多字数の作品が多い中での二文字作品。太筆で十分な墨で、思い切りの良い筆遣い、迫力のある堂々とした傑作である。（森嶋）

佳作 『わがいほは』 木邑 匡良

仮名の中字作品。静かな書き出しから横への自然な展開、中央から後半への盛り上がり
が素晴らしく、最後は上手く纏められている。（森嶋）

写真部門 審査評

審査員 小林 達也

総評

今年もバラエティー豊かな力作が多く、地域の写真文化の高さを再確認させていただきました。特に賞に関しては、作者の被写体を捉える視点と写真プリントの完成度に重点をおき審査をさせていただきました。デジタル化が進んだ現在でも、写真本来の良さが十分に発揮された素晴らしい作品に出会えたことに感謝いたします。

甲賀市展賞 『大樹』 初田 嘉次

構図・画質の良さ、統一された色調と、数ある作品の中でも大変目を引きました。見る者それぞれの人生観にも繋がる内容に、この作品の完成度の高さを感じます。

甲賀市議会議長賞 『支える手・手・手』 西出 稔

画面の整理と見せたい部分のみに焦点を合わせる焼き込みと、手慣れた作品に安心感を持ちます。高揚感ある肌の色調も良く優れた作品です。

甲賀市教育委員会教育長賞 『雨あがりのプレゼント』 成徳 恵美子

水面の落ち着いた色調に葉の緑と水滴の透明感が美しい作品です。鑑賞していても飽きない内容が、この作品には存在しています。作者の感性の良さを感じます。

京都新聞賞 『駐輪場』 小谷 博司

被写体の面白さが際立った作品です。要素が多い内容を無駄なく的確に捉えています。デザイン的にも優れた作品です。

朝日新聞社賞 『キョートゴーストサマーストーリー』 植田孝志 (kokaindex)

ネガフィルムで撮影した様な独特な雰囲気を持った作品です。これだけの要素を持った被写体を作者の感性で一つにまとめ上げた事を高く評価しました。

佳作 『氷柱華』 山本 靖幸

全体的な色調も美しく、氷の透明感も申し分ありません。画面の周りに、もう少し暗部を作ると内容が高まります。

佳作 『負の遺産』 小森 光司

被写体が野に捨てられた廃車と少し変わった内容だけに目を引きました。廃車の存在感は充分に出ています。もう少し画面を引き、車を小さく扱えば、内容につながります。

佳作 『散りて満開』 服部 眞美子

組写真での内面的な表現が好印象です。桜の花びらのピンクと水溜りのブルーも対照的で、作者の独特な感性が伺えます。

佳作 『乱舞』 倉崎 庄市

炎の分量と配置、手前の人物の分量と形が良く、人物も完全なシルエットではなく、微妙に出た色調が印象的です。落ち着いた作品です。

佳作 『湖上の花々』 篠原 武久

題名の通り、素直に端的に表現された事が良かったと思います。画面の水面の位置で大きく印象の変わる写真ですが、この位置で成功されています。

佳作 『まつりの顔・顔・顔』 伴 光藏

これだけ写った人物の表情全てが、生きた表情であることに作者の狙いが感じ取れます。写真ならではの秀作です。

佳作 『峡谷のひととき』 成岡 幸和

峡谷の清々しさと、等間隔で配置されたボートが印象的です。一番手前の人物の服の赤色も、大変良いアクセントになっています。

奨励賞 (公社)水口青年会議所賞 『春の中』 田代 帆華

少女の何気ない表情や仕草など、何よりも素直な表現にこの作品の魅力を感じます。画面下の車も、この少女が乗って来た車と捉えると単写真として成立しています。